

建設産業を見て、体験して、知ってもらおう! 「子ども霞が関見学デー」を開催

8月6日、7日の2日間、東京・霞ヶ関の国土交通省にて広報イベント「子ども霞が関見学デー」が開催されました。

このイベントは、子どもたちを対象とした親子参加型の業務説明や職場見学などを行うことにより、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、行政の仕事について理解を深めてもらうことを目的に各省庁で実施しています。

当基金が事務局を務める建設産業戦略的広報推進協議会(以下「広報推進協議会」)では、子ども(小中学生)とその保護者に、建設業の魅力を感じてもらうために、建設企業や各建設業団体の協力のもと、建設機械の操作・試乗体験や職人技の実演、体験などの各種イベントを実施しました。

屋外の駐車スペースでは、(一社)全国建設業協会、(一社)東京建設業協会、西松建設(株)の協力のもと、国内にも数台しかないという『双腕式ショベル(ASTACO)の試乗体験』やオペレーターによるダイナミックな操作の披露、『ミニパワーショベルの操作体験』を実施しました。普段、中々見ることができないということもあり、建設機械の前で記念撮影を行う様子も多く見られました。建設機械が実際の災害復旧活動の現場で活躍していることを初めて知った子どもたちも多く、建設業が災害復旧・復興に大きく携わっていることを、学んでもらう貴重な機会になったようです。オペレーターの補助のもと、ミニパワーショベルを自ら操作してカラーボールをすくい、機械の機能を体感する体験に参加した子どもたちからは、「かっこよかった」「緊張したけど動かして楽しかった」「もっと運転したい」など、目を輝かせながらの声がかげられました。

また、専門工事業団体の協力のもと行

われたイベントでは、子どもたちがプロの職人さんと一緒にものづくりを体験しました。

(一社)日本左官業組合連合会、東京都左官組合連合会のブースでは、左官の仕事を体験するコーナーを設け、子どもたちにこての使い方が伝授されました。こてを用いて絵を描く『こて絵体験』や、本物の漆喰を使用した『塗り壁体験』など、親子が一緒に楽しんでいる様子が見られました。こてで美しく壁を仕上げる女性職人さんの姿に、「私も左官職人になりたい」という声も上がり、左官の仕事を知ってもらえる機会になったようです。



(一社)日本造園組合連合会のブースでは、庭師と一緒に石や草花をミニポットに植える『ミニミニ庭園づくり』の体験コーナーや、縄結びの技を学ぶ『関守石文鎮づくり』のコーナーなど、幅広く造園に興味を持ってもらえるイベントを設け、「家でもお母さんとやってみたい」といった子どもたちの声がかげられました。

(一社)日本アンカー協会では、講師に藤井基礎設計事務所の藤井俊逸氏を招き、模型を用いて、崖崩れの防止に役立つアンカー工事の仕組みを子どもたちに解説しました。

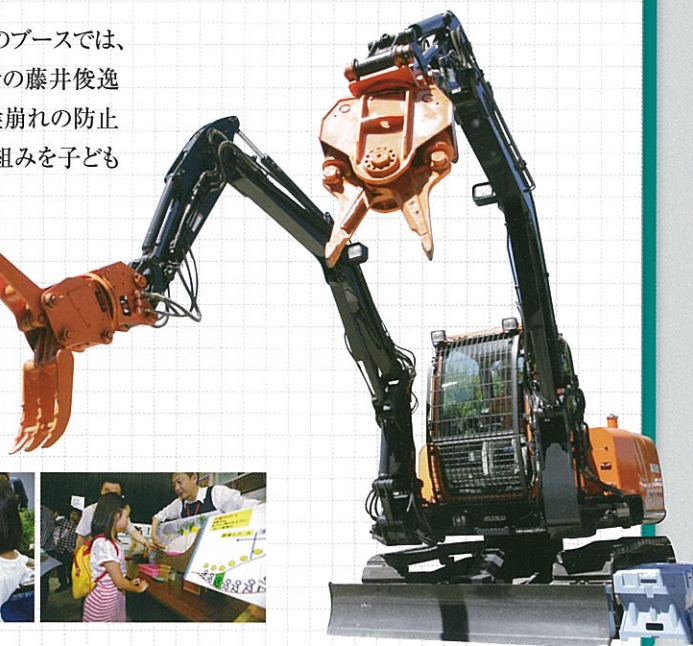
その他、全国基礎工業協同組合連合会及び(一社)日本塗装工業会の協力のもと、専門工事業の仕事を紹介するパネル展示も実施しました。



各会場には、専門工事業団体のキャラクターやマーク、双腕式ショベルのイラスト、『建設現場へGO!』のロゴマークを使用した5種類のスタンプを設置し、スタンプラリーを実施しました。多くの子どもたちが参加し、5種類すべてのスタンプを集めた子どもたちには記念品をプレゼントしました(記念品は、(一社)日本建設業連合会、(一社)全国建設業協会、(一社)東京建設業協会、東日本建設業保証(株)、勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部など、広報推進協議会の委員団体等から寄贈されたもの)。

広報推進協議会として初の参加でしたが、建設産業が一致団結したイベントとなり、大盛況のうちに終了しました。こうしたイベントを通じ、未来を担う若者に建設産業の魅力を伝えていくことができるよう、今後とも広く活動していきます。

建設産業戦略的広報推進協議会





【つれづれ所感】

「子ども霞が関見学デー」——弾む懇談

2014年8月 8日



8月6日と7日の二日間、「子ども霞が関見学デー」が行われ、国土交通省でも、ショベルカーをはじめさまざまな展示コーナーが夏休み中の多くの子どもたちで賑わいました。7日には「国土交通大臣とおはなししよう」という場を開催。大臣室に13人の小中学生（遠くは仙台市や新潟県見附市、奈良県橿原市から参加）とその保護者の方をお招きして懇談しました。

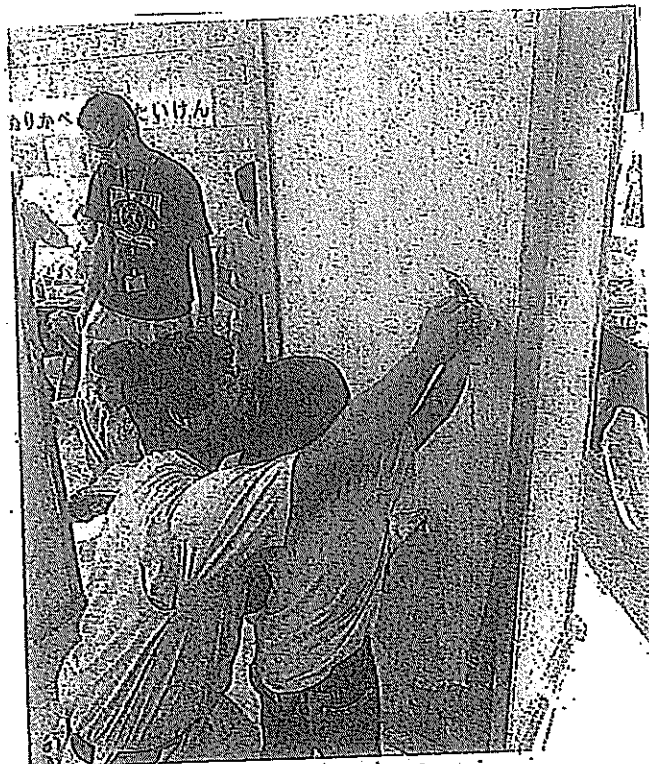
大臣室にある日本の立体地図を使って地震や津波の仕組みなどを説明し、国土交通省の仕事内容を子どもたちに紹介。「大臣への質問コーナー」になると、元気よく一斉に手が挙がりました。

「大臣になって一番大変だったことは何ですか」「僕は鉄道が好きですが、大臣は小学生の時は何が好きでしたか。」といったことから、「海で船が迷子になったらどうすればいいのですか」「家族で出かけることが多いので、高速道路の料金がもっと安くなればうれしいです」「羽田空港はこれからどうなりますか」「道路をつくる時に木を切ったりすると、自然破壊になりませんか」「道路や空港などをつくるためのお金はいくらぐらいですか」「これから東北の復興をどう進めますか」「僕は群馬県前橋市から来ました。ハツ場ダムはいつ完成しますか」など、幅広い質問が続きました。

乗り物などを通じて国土交通省の仕事は子どもたちにも身近で関心が深いようです。陸海空にわたる幅広い国土交通省の仕事や行政の仕組みについて、理解を深めてもらういい機会になったと思います。元気な子どもたちと楽しいふれあいができました。

【平成26年子ども霞が関見学デー】建設産業戦略的広報推進協議会：新聞記事

H26.8.7 産経新聞(11面)



人手不足？ボクらにおまかせ！

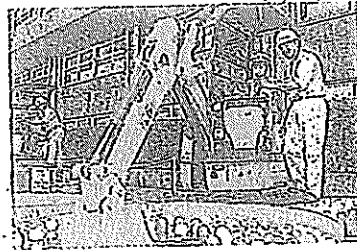
国土交通省は6日、子供たちが鉄道や建設現場などの仕事を体験できる「子ども霞が関見学デー」を東京・霞が関の同省内で開催した。今回、ショベルカーの操作体験やこてを使った塗り壁体験などを初めて導入。指導者には女性職人も配置し人手不足に悩む建設業界の仕事の楽しさをアピールした一写真(宮田翼撮影)。

同省の山村晋太郎土地・建設産業局課長補佐は、建設業界などの仕事体験を通して「子供たちに多くの仕事に触れ、興味を持ってもらいたい」と話した。子ども霞が関見学デーは8月6、7の両日、霞が関の府省庁など25カ所で行われる。

H26.8.7 建設工業新聞(1面)

建機を操ってみた!

子ども霞が関見学デーで試乗体験
建設現場で働く建設機械を動かしてみよう。
6、7日に東京・霞が関の官庁街を舞台に行われ
ている夏休み企画「子ども霞が関見学デー」。国
土交通省の正面玄関前の駐車スペースでは、実際
に建設現場で活躍するミニパワートラックが置か
れ、子どもたちが自ら操作してカラーボールをす
くす試乗体験が行われている。写真。



国土交通省が建設業界団体などをつくる建設産業戦
略的広報推進協議会が企画したこの取り組みは、
建機に触れ、建設業の魅力を体感してもらうのが
狙い。子どもたちは、
オペレーターの手ほど
きを受け、緊張しなが
ら丁寧に建機を操作し
ていた。
会場には国内にまだ
数台しかないという双
腕式ショベルも登場。
オペレーターによる妙
技が披露された。

II-2面に詳しく

戦略的広報推進協



職人の手ほどきを受けて建設の
仕事に触れる子どもたちII-6
日、国土交通省で

H26.8.7 建設工業新聞(2面)

きょうまで「子ども霞が関見学デー」

国土交通省が建設業界団体など
をつくる建設産業戦略的広報推進
協議会は、6、7日に東京・霞が
関の官庁街で開催されている「子
ども霞が関見学デー」で、子ども
たちに建設の魅力を伝える各種イ
ベントを展開中だ。造園や左官の

ミニ庭園や塗り壁体験

職人の手ほどきを受けてミニ庭園
づくりや塗り壁などを体験しても
らうほか、各専門工事業団体によ
る職人の仕事を紹介するパネル展
示なども行っている。

II-1面参照
協議会が国土交通省内で企画してい

るプログラムは、「ミニ庭園づく
り」「関守石文鎮づくり体験」
「こて絵体験」「塗り壁体験」や、
実物大模型で産卵れを防止する住
どもを紹介する「よく分かるア
ンカー工事の仕組み」「職人さん
のお仕事紹介パネル展」など。

日本造園組合連合会(造園連)、
日本左官業組合連合会(日左連)、
東京都左官組合連合会(東左連)、
日本アンカー協会、日本塗装工業
会(日塗装)などの団体が協力し
ている。

国土交通省正面玄関横の駐車スペース

で行われている建設機械の操作
試乗体験会場には、全国建設業
協会(全建)、東京建設業協会
(東建)、西松建設を通じて日立
建機と西尾レントオールが提供し
た双腕式ショベル、ミニパワート
ラックを配備した。

各展示・体験ブースにスタンパ
台を設置してスタンプラリーも実
施。すべてのスタンプを集めた子
どもたちには、記念品を袋詰めし
た「建設遺産」を贈呈した。記
念品は、日本建設業連合会(日建
連)、全建、東建、東日本建設業
保証、勤労者退職金共済機構建設
業退職金共済事業本部(建退共)
が提供した。

職人体験に歓声
子どもが関見学デー



中央省庁の仕事などを子どもたちも知ってもらおうと毎年開催している「子どもが関見学デー」が6日、東京・霞が関で始まった。国土交通省では今回、建設業団体などが加わる「建設産業戦略的広報推進協議会」もプログラムを提供。パワーショベルの試乗や職人の仕事体験などに、子どもたちは歓声を上げていた。このイベントは7日まで開かれる。

メイン会場となる中央合同庁舎3号館10階の大会議室には、国土交通省や観光庁、海上保安庁、国土地理院などがブースを出展。同協議会は、産師と一緒に「ミニ二層圓筒」も左官職人の手ほどきによる「漆の器体験」など、さまざまな体験プログラムを用意し、未来の担い手に建設業の仕事を知ってもらった。子どもたちも真剣なまなこでプログラムの技を手伝っていた。写真。

正面玄関前の駐車場には、日本に教習しかないという2本の腕を持つ「双腕式ショベル」が登場。子どもたちは、ミニパワーショベルを使ったボールすくいにも挑戦し、建機の性能を体験した。

建設業関係のプログラムには、日本建設業連合会や全国建設業協会、東京都建設業協会、日本造園組合連合会、日本左官業組合連合会、東京都左官組合連合会、日本ヤンカー協会、日本建設工業会、全国基礎工業協同組合連合会などが協賛している。

H26.8.6 建通信新聞(電子版)

霞が関で建機試乗イベント

2014/8/6

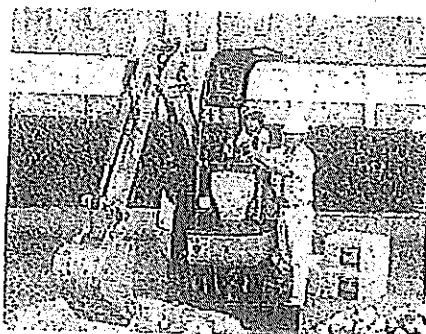
建設業の魅力を発信するための広報戦略を進めている「建設産業戦略的広報推進協議会」は、6・7日の2日間にわたって東京都千代田の中央省庁で開かれている「子ども職が関見学デー」に職人の仕事体験ブースなどを出展した。国土交通省の正面玄関には、ミニパワーショベルなどの建機3台が運び込まれ、来場した子どもたちが実際に建機を操作し、建機の機能を体感した。

この取り組みは、建設業のイメージアップを図るために建設産業戦略的広報推進協議会と協議会に参加する建設業団体などの協力でことし初めて実現したもの。夏休みのこの時期に毎年開かれている子ども職が関見学デーに建設業の仕事を紹介するブースなどを出展し、来場した子どもや保護者らに建設業の魅力を訴えた。

建機の操作・試乗体験は、全国建設業協会、東京建設業協会、西松建設の協力で、国土交通省の正面玄関前にミニパワーショベルと双腕式ショベルを持ち込んだ。子どもたちは、オペレーターと一緒にミニパワーショベルを操作し、プールに浮かんだカラーボールをすくい出した。

国土省庁舎の共用大会議室には、職人の仕事体験ブースも設置された。日本造園組合連合会は会員企業から庭師を派遣した「ミニ庭園づくり」、日本アンカー協会はアンカー工事の仕組みが分かる実物大模型を展示した。

日本左官業組合連合会と東京都左官組合連合会はこてを使って実際に左官材を壁に塗る「塗り壁体験」のほか「こて絵(漆喰の浮き彫り細工)体験」を行った。



H26.8.8 建設通信新聞(2面)

「敏腕記者」が突撃取材

子ども霞が関デー

大臣室に「敏腕記者」が勢ぞろい。6、7日の2日間にわたって開催された「子ども霞が関デー」の一環で全国から集まった小・中学生13人が太田昭宏国土交通相に「突撃取材」した一写真。

笑顔で出迎えた太田国交相が「国土交通省の仕事」を紹介。質問コーナーに移ると、参加した子どもたち全員が一斉に挙手し、太田国交相も「普段の記者会見よりも質問が多い」と苦笑いする一幕も。

小・中学生が太田大臣に質問

「家族旅行が好きなので、高速道路の料金を安くしてほしい」「東日本大震災の復興にどう取り組んでいくのか知りたい」「羽田空港はこれからどうなるのですか」「なぜ、大臣になったのですか」といった子どもたちの「直球」の問いに、太田国交相が一つひとつ丁寧に「答弁」した。

復興に関する質問には、「いつも安全・安心に気を配って対策を進め



ているが、防潮堤などのインフラを造るということだけでなく、命を守るには、避難するための準備をしておくことが大切」と防災教育も兼ねた答弁を展開。2027年の開業を目指すリニア中央新幹線などを例に「時代が大きく変わってきている。みんなが大人になるころには、日本は大きく変わる」と熱弁をふるった。

積極的な質問に、太田国交相も「すごい質問だ」「いま要請を受けたのでしっかり検討します」と感心しきり。パワーショベルの体験試乗など「職場体験」と合わせて、夏休みを迎えている子どもたちにとっても絶好の社会見学の間になった。

H26.8.8 建設産業新聞(1面)

国土交通省は各府県庁等と連携し「子ども霞が関見学デー」を6日、7日に開いた。見学デーのイベントの一環として7日に実施した「国土交通大臣とおはなししよう」では、小中学生13人が大臣室を訪問。太田昭宏国土交通大臣に直接質問を行った。



「子供達からは、「休日家族で出かけるのが好きだが、高速道路料金が高いので安くしてほしい」、「なぜ国土交通大臣になったのか」といったユニークな質問もあった。太田大臣は子供達に対し、今回の見学デーを契機に生活の安全・安心を支える省の業務、役割への理解を深めてもらいたいと呼びかけることも、「夏休み明けのいい思い出をつくらせて欲しい」と言葉をかけた。

太田大臣と小中学生が懇談

子ども霞が関見学デー

省機に生活の安全・安心を支える省の業務、役割への理解を深めてもらいたいと呼びかけることも、「夏休み明けのいい思い出をつくらせて欲しい」と言葉をかけた。